

**2021 年度**

文部科学省『多様なニーズに対応する「がん専門医療人材  
(がんプロフェッショナル)」養成プラン』採択プログラム

## **未来がん医療プロフェッショナル養成プラン**

**緩和ケア医療者養成コース**

**(インテンシブコース)**

**履 修 要 項**



## 目 次

コースの目的及び修了要件	2
履修案内	3
緩和医療学	4
臨床腫瘍学総論	6
腫瘍治療学	8
緩和医療学実習	10
履修状況届	12

## コースの目的及び修了要件

大 学 名： 東京医科大学  
教育コース名： 緩和ケア医療者養成コース(インテンシブコース)  
修 業 期 間： 1年

### ●養成すべき人材像：

- ①がん診療における緩和医療の位置づけを理解し、がんの診断時から終末期に至るまでのがんによる苦痛に対する緩和医療の専門的知識・技術・態度に基づく臨床実践、コンサルテーション、教育指導、啓蒙活動ができる。
- ②各悪性腫瘍に特徴的な臨床経過、治療に伴う有害事象、種々な臨床的課題等を理解し、いろいろな臨床的状況に応じた緩和医療が実践できる。
- ③緩和医療における多職種とのグループワークを通じて、チームワークによる医療の重要性を理解し、チーム医療による緩和医療が実践できる。
- ④ 病診連携により在宅緩和ケアが実践できる。

### ●修了要件・履修方法：

所定のカリキュラム（講義および実習）6単位の履修

### ●履修科目等：

必修6単位（緩和医療(1)、臨床腫瘍学総論(1)、腫瘍治療学(2)、緩和医療実習(2)）

### ●教育内容の特色：

本プログラムでは、それぞれの悪性腫瘍に特徴的な病態、治療に伴う有害事象あるいは臨床的課題等を理解し、鳥瞰的な緩和医療が実践できることを目標としている。

また、多職種の医療者が本プログラムを履修することにより共通の知識を修得できるとともに、グループワークを通じて知識・技能・態度を共有し多職種によるチームワークを醸成し、真の多職種によるチーム医療が実践できることを期待している。

さらに、緩和ケアチームは在宅がん医療を推進しており、実習を通して在宅緩和ケアを実践する。

### ●コース修了者のキャリアパス構想：

緩和ケアに従事する医療者（緩和医療専門医、緩和ケア認定看護師、がん看護専門看護師、緩和薬物療法認定薬剤師等）

## 履 修 案 内

### ●履修方法

- ・講義科目については、原則は本学 e-learning システム「e-自主自学」により受講してください。
- ・緩和医療実習は、授業担当者と日程を調整し受講してください。

### ●履修状況届

- ・e-自主自学により受講した日付を「履修状況届(P13～15)」に記入してください。
- ・緩和医療実習は、受講日付を記入し、担当者に押印をもらってください。
- ・「履修状況届」は、全ての科目の受講終了後に速やかに学務課へ提出してください。

### ●緩和ケア医療者養成コース(インテンシブ)の修了

インテンシブコースの方は、受講が終了し、学務課へ「履修状況届」を提出した翌月の医学研究科委員会で成績査定を行い、その結果、合格すると修了となります。

## 緩和医療学

科目担当責任者（所属・職・氏名）：東京医科大学麻酔科学分野・緩和医療部

教授 濱田 宏

科目担当教員（所属・職・氏名）：東京医科大学精神神経科学分野・メンタルヘルス科・緩和医療部

助教 村越 晶子

東京医科大学大学院外科系専攻/社会人大学院・臨床研究系専攻  
呼吸器・甲状腺外科学東京医科大学病院緩和医療部

教授 大平 達夫

東京医科大学麻酔科学分野・緩和医療部

准教授 齊藤 理

越川病院緩和ケア科医師、東京医科大緩和医療部

兼任講師 遠藤 光史

東京医科大学病院看護部・緩和医療部

看護師 目黒 清香

(緩和ケア認定看護師)

東京医科大学病院看護部・緩和医療部

看護師 杉森 彩香

(緩和ケア認定看護師)

東京医科大学病院薬剤部・緩和医療部

薬剤師 宮里 明芽

(緩和薬物療法認定薬剤師)

### 1. 授業の目標・概要

#### (1) 授業の目標

- ① がん対策基本法とがん対策推進基本計画の内容を理解し、緩和医療を実践する医療者として必要な緩和医療・ケアにおける基本を習得する。
- ② がん診療連携拠点病院、緩和ケア病棟・ホスピス、在宅医療の現状を理解し、切れ目のないがん患者医療・ケアの重要性を理解する。
- ③ 緩和医療・ケア外来や入院患者回診を通して、がん患者の診療における基本姿勢・態度を習得する。
- ④ がんサバイバーが抱える問題点を理解し説明できる。

#### (2) 授業の概要

- ① がん対策基本法とがん対策推進基本計画が公布、施行された背景を概説する。
- ② がん患者の身体症状を評価し、特に痛み、呼吸困難、消化器症状などについての症状の評価と治療計画作成について解説する。
- ② がん患者の精神的症状を評価し、特に不眠、せん妄について症状の評価と治療計画の作成について解説する。
- ③ PEACE 研修会に参加し Bad News の伝え方や処方薬剤の説明の仕方を、ロールプレイを通して学ぶ。実際に PEACE 研修会に参加し企画運営を行う。
- ④ 緩和ケアチームのカンファレンス、地域で行われているがん患者の症状緩和に関する学習会、リハ

びりに関する学習会、地域医療連携に関する学習会に参加し、最前線の取り組みを知り理解を深める。

- ⑤ がんサバイバーの本邦における現状について、資料を収集して発表できるようにする。

## 2. 授業計画

回		内容	担当者	場所
1	講義	緩和ケア概論	田上 正	e-learning
2	講義	身体症状その1 痛みとその対応	齊藤 理	e-learning
3	講義	身体症状その2 呼吸器症状とその対応	大平 達夫	e-learning
4	講義	身体症状その3 消化器症状とその対応	遠藤 光史	e-learning
5	講義	精神症状とその対応	村越 晶子	e-learning
6	講義	コミュニケーション Advance Care Planning	田上 正	e-learning
7	講義	End of Life Care	田上 正	e-learning
8	講義	緩和ケア病棟、在宅医療の実際	遠藤 光史	e-learning

## 3. 授業に際し学生の留意点

### (1) 授業への準備・予習

予め提示された内容について、自学自習を行う。

### (2) 他の授業科目との関連性

がん患者へのICやコミュニケーションはPEACE研修会のロールプレイで実際に行うことができる。がんの身体的症状には、がん治療が原因で生じる痛みや治療による副作用などがあるので、評価や対策をまとめて整理することができる。

### (3) その他

明日からの臨床に活かせる知識やスキルが身に付くことを目標とする。

東京医大病院は区西部緩和ケア推進運営事業会議における研修担当責任病院です。

## 4. 学生への評価方法

出席状況、授業時の態度や討論の内容、レポートで理解の程度の確認

実習への参加状況や実習態度およびレポート

## 5. 教科書・参考書など

がん対策基本法とがん対策推進基本計画は、必ず目を通して説明できるようになることが望ましい。

'Oxford Textbook of Palliative Medicine': Geoffrey Hanks, et al 2010

系統緩和医療学講座 身体症状のマネジメント 恒藤 暁 最新医学社 2013

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年度版 特定非営利法人日本緩和医療学会編

苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン 2011年度版 特定非営利法人日本緩和医療学会編

がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 2017年度版特定非営利法人日本緩和医療学会編

がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 2011年度版特定非営利法人日本緩和医療学会編

終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン 2011年度版特定非営利法人日本緩和医療学会編

**臨床腫瘍学総論**

科目担当責任者（所属・職・氏名）：東京医科大学病院臨床腫瘍科 教授 吉村 明修

科目担当教員（所属・職・氏名）：東京医科大学病院臨床腫瘍科 教授 吉村 明修  
 東京医科大学社会医学系専攻/社会人大学院・研究系専攻  
 公衆衛生学 講師 菊池 宏幸  
 東京医科大学病院薬剤部 (元) 主査 宮松 洋信  
 (がん看護専門看護師)  
 東京医科大学大学院形態系専攻/社会人大学院・研究系専攻  
 分子病理学 主任教授 黒田 雅彦  
 准教授 倉田 厚  
 講師 高梨 正勝

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① わが国のがんの疫学・統計を知るとともに、がん医療に関するわが国の医療政策を理解する。
- ② がん診療におけるチーム医療の重要性を理解し、診療で行われているチーム医療を理解する。
- ③ 腫瘍の発生原因となる、分子異常と病理学を対比することで、腫瘍発生の全体像を理解する。
- ④ がんの合併症とその対策を、緩和医療の立場から理解する。

(2) 授業の概要

- ① 基本的知識について講義 (e-learning、8回) を行う。講義は e-learning で実施し、履修後のミニ・テスト、講義に対する質問状況で評価する。

2. 授業計画

回		内容	担当者	場所
1	講義	がん対策基本法とがん対策	吉村 明修	e-learning
2	講義	がんの統計	菊池 宏幸	e-learning
3	講義	がん診療とチーム医療	宮松 洋信	e-learning
4	講義	がんの病因	黒田 雅彦	e-learning
5	講義	がんの病理診断	倉田 厚	e-learning
6	講義	がんの増殖・浸潤・転移	高梨 正勝	e-learning
7	講義	がんの合併症と対策 1	吉村 明修	e-learning
8	講義	がんの合併症と対策 2	吉村 明修	e-learning

3. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

講義については、講義時間が限られているため、当該講義担当教員の指示により、講義の準備・予習を行うこと。

(2) 他の授業科目との関連性

全ての他の授業科目と密接な関連性を有する。常に他の分野との関連を考慮し総合的に疾患・病態等を理解するように努めること。

(3) その他

本コースでは鳥瞰的な緩和医療が実践できることを目標としていることから、総括的な本科目の重要性を理解すること。

4. 学生への評価方法

講義の履修状況、講義後に実施するミニ・テスト、講義に対する質問状況、実習

5. 教科書・参考書など

- ・新臨床腫瘍学（改定第2版）—がん薬物療法専門医のために—, NPO 法人日本臨床腫瘍学会編集, 南江堂.
- ・Cancer Principles & Practice of Oncology (9<sup>th</sup> edition), Wolters Kluwer / Lippincott Williams & Wilkins.
- ・The biology of CANCER second edition, Robert A. Weinberg
- ・ペコリーノ がんの分子生物学 メカニズム・分子標的・治療 (監訳 日合弘・木南凌) (株)メデイカル・サイエンス・インターナショナル.



## 腫瘍治療学

科目担当責任者（所属・職・氏名）：東京医科大学病院臨床腫瘍科 教授 吉村 明修

科目担当教員（所属・職・氏名）：東京医科大学大学院外科系専攻/社会人大学院・臨床研究系専攻  
呼吸器・甲状腺外科学 教授 梶原 直央  
(元) 講師 前田 純一  
(元) 講師 岡野 哲也

東京医科大学大学院内科系専攻/社会人大学院・臨床研究系専攻  
放射線医学 講師 三上 隆二  
講師 佐口 徹

東京医科大学病院臨床腫瘍科 教授 吉村 明修  
東京医科大学病院薬剤部 主査 宮松 洋信  
(がん指導薬剤師、がん専門薬剤師)

東京医科大学大学院内科系専攻/社会人大学院・臨床研究系専攻  
消化器内科学 助教 杉本 暁彦  
助教 福澤 誠克  
講師 杉本 勝俊  
准教授 祖父尼 淳

東京医科大学大学院外科系専攻/社会人大学院・臨床研究系専攻  
乳腺科学 准教授 山田 公人

東京医科大学大学院外科系専攻/社会人大学院・臨床研究系専攻  
産婦人科学 主任教授 西 洋孝

東京医科大学大学院外科系専攻/社会人大学院・臨床研究系専攻  
泌尿器科学 講師 橋本 剛

東京医科大学大学院内科系専攻/社会人大学院・臨床研究系専攻  
血液内科学 教授 伊藤 良和

### 1. 授業の目標・概要

#### (1) 授業の目標

- ① がんの治療における外科治療、放射線治療、がん薬物療法等の集学的治療を理解できる。
- ② がん薬物療法、分子標的治療の基本的知識（薬物療法の目的、薬物療法の基礎理論、薬物療法の適応と限界、有害事象と支持療法）を理解できる。
- ③ 主要な悪性腫瘍の疫学、危険因子、スクリーニング、確定診断、病期分類、予後因子、治療方針、がん薬物療法の標準的治療、進行期の支持的・緩和的処置等を網羅的に理解する。

#### (2) 授業の概要

基本的知識について講義（e-learning、16回）を行う。講義はe-learningで実施し、履修後のミニ・テスト、講義に対する質問状況で評価する。

## 2. 授業計画

回		内容	担当者	場所
1	講義	がん治療総論（外科治療）	梶原 直央	e-learning
2	講義	がん治療総論（放射線治療）	三上 隆二	e-learning
3	講義	がん治療総論 （インターベンショナルラジオロジー）	佐口 徹	e-learning
4	講義	がん治療総論（内視鏡治療）	前田 純一	e-learning
5	講義	がん治療総論（がん薬物療法）	吉村 明修	e-learning
6	講義	がんの分子標的治療薬	岡野 哲也	e-learning
7	講義	がん薬物療法による有害事象と支持療法 1	吉村 明修	e-learning
8	講義	がん薬物療法による有害事象と支持療法 2	宮松 洋信	e-learning
9	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理（胸部腫瘍）	岡野 哲也	e-learning
10	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理（消化管がん）	福澤 誠克	e-learning
11	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理（肝臓がん）	杉本 勝俊	e-learning
12	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理（胆膵がん）	祖父尼 淳	e-learning
13	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理（乳がん）	山田 公人	e-learning
14	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理 （女性生殖器がん）	西 洋孝	e-learning
15	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理 （泌尿生殖器がん）	橋本 剛	e-learning
16	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理（造血器腫瘍）	伊藤 良和	e-learning

## 3. 授業に際し学生の留意点

## (1) 授業への準備・予習

講義については、講義時間が限られているため、当該講義担当教員の指示により、講義の準備・予習を行うこと。主要な悪性腫瘍の疫学、危険因子、スクリーニング、確定診断、病期分類、予後因子等は予習して授業に臨むことが望ましい。

## (2) 他の授業科目との関連性

全ての他の授業科目と密接な関連性を有する。常に他の分野との関連を考慮し総合的に疾患を理解するように努めること。

## 4. 学生への評価方法

講義の履修状況、講義後に実施するミニ・テスト、講義に対する質問状況、実習

## 5. 教科書・参考書など

新臨床腫瘍学（改定第2版）—がん薬物療法専門医のために—。NPO 法人日本臨床腫瘍学会編集。南江堂。

Cancer Principles & Practice of Oncology (9<sup>th</sup> edition), Wolters Kluwer / Lippincott Williams & Wilkins.

## 緩和医療学実習

科目担当責任者（所属・職・氏名）：東京医科大学大学院外科系専攻/社会人大学院・臨床研究系専攻  
 麻酔科学・緩和医療部 教授 濱田 宏

科目担当教員（所属・職・氏名）：東京医科大学精神神経科学分野・メンタルヘルス科・緩和医療部  
 助教 村越 晶子

東京医科大学麻酔科学分野・緩和医療部

准教授 齊藤 理

東京医科大学大学院外科系専攻/社会人大学院・臨床研究系専攻  
 呼吸器・甲状腺外科学東京医科大学病院緩和医療部

教授 大平 達夫

越川病院緩和ケア科医師、東京医科大緩和医療部

兼任講師 遠藤 光史

東京医科大学病院看護部・緩和医療部

看護師 目黒 清香

(緩和ケア認定看護師)

東京医科大学病院看護部・緩和医療部

看護師 杉森 彩香

(緩和ケア認定看護師)

東京医科大学病院薬剤部・緩和医療部

薬剤師 宮里 明芽

(緩和薬物療法認定薬剤師)

東京医科大学病院総合相談・支援センター 藤平 輝明

(医療福祉担当社会福祉士)

東京医科大学病院総合相談・支援センター 志賀 圭子

(在宅医療担当看護師)

東京医科大学病院総合相談・支援センター 小川 絢多

(医療福祉担当社会福祉士)

### 1. 授業の目標・概要

#### (1) 授業の目標

- ① がん対策基本法とがん対策推進基本計画の内容を理解し、総合臨床腫瘍医として必要な緩和医療・ケアにおける基本を習得する。
- ② がん診療連携拠点病院、緩和ケア病棟・ホスピス、在宅医療の現状を理解し、切れ目のないがん患者医療・ケアの重要性を理解する。
- ③ 緩和医療・ケア外来や入院患者回診を通して、がん患者の診療における基本姿勢・態度を習得する。
- ④ がんサバイバーが抱える問題点を理解し説明できる。

#### (2) 授業の概要

- ① がん対策基本法とがん対策推進基本計画が公布、施行された背景を概説する。
- ② がん患者の身体症状を評価し、特に痛み、呼吸困難、消化器症状などについての症状の評価と治療

計画作成について解説する。

- ② がん患者の精神的症状を評価し、特に不眠、せん妄について症状の評価と治療計画の作成について解説する。
- ③ PEACE 研修会に参加し Bad News の伝え方や処方薬剤の説明の仕方をロールプレイを通して学ぶ。実際に PEACE 研修会に参加し企画運営を行う。
- ④ 緩和ケアチームのカンファレンス、地域で行われているがん患者の症状緩和に関する学習会、リハビリに関する学習会、地域医療連携に関する学習会に参加し、最前線の取り組みを知り理解を深める。
- ④ がんサバイバーの本邦における現状について、資料を収集して発表できるようにする。

## 2. 授業計画

回		内容	担当者	場所
1	実習	外来・病棟実習	濱田 宏	外来・病棟
2	実習	外来・病棟実習	齊藤 理	外来・病棟
3	実習	外来・病棟実習	濱田 宏	外来・病棟
4	実習	外来・病棟実習	齊藤 理	外来・病棟
5	実習	外来・病棟実習	濱田 宏	外来・病棟
6	実習	がん教育現場での実習 (富久小学校)	濱田 宏	富久小学校
7	実習	緩和ケア研修会への参加 (受講者または見学者として)	濱田 宏	東京医科大学病院
8	実習	緩和ケア研修会への参加 (ファシリテーターとして)	濱田 宏	東京医科大学病院
9	実習	緩和ケアチームカンファレンスへの参加	濱田 宏	東京医科大学病院
10	実習	緩和ケアチームカンファレンスへの参加	濱田 宏	東京医科大学病院
11	実習	緩和ケアチームカンファレンスへの参加	濱田 宏	東京医科大学病院
12	実習	区西部緩和ケアネットワークへの参加	濱田 宏	担当病院
13	実習	Cancer Board への参加	濱田 宏	東京医科大学病院
14	実習	新宿区在宅緩和ケア事例検討会への参加	濱田 宏	担当病院
15	実習	新宿区在宅緩和ケア事例検討会への参加	濱田 宏	担当病院
16	実習	緩和ケアチーム活動内容の研究と発表	濱田 宏	東京医科大学病院 関連学会

## 3. 実習に際し学生の留意点

### (1) 実習への準備・予習

電子カルテを用いて緩和ケアチームが関与している患者の病状や治療内容を予め把握し、問題点を抽出  
緩和ケア研修会参加者ハンドブックや指導者へ資料を参考にして学習する

### (2) 他の臨床科との関連性

他の臨床科と共同診療をしているので、治療科の治療方針を尊重しつつコミュニケーションを取ることを学ぶ

#### 4. 学生への評価方法

実習への参加状況、実習態度、発表態度と内容

患者・家族との面談などで直接会う際の服装、挨拶、言葉遣い

#### 5. 教科書・参考書など

がん対策基本法とがん対策推進基本計画は、必ず目を通して説明できるようになることが望ましい。

’Oxford Textbook of Palliative Medicine’: Geoffrey Hanks, et al 2010

系統緩和医療学講座 身体症状のマネジメント 恒藤 暁 最新医学社 2013

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年度版 特定非営利法人日本緩和医療学会編

苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン 2011 年度版 特定非営利法人日本緩和医療学会編

がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 2017 年度版特定非営利法人日本緩和医療学会編

がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 2011 年度版特定非営利法人日本緩和医療学会編

終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン 2011 年度版特定非営利法人日本緩和医療学会編

履修者番号 (学籍番号) \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

## 履修状況届

### 緩和医療学

回		内容	担当者	日付 (西暦)
1	講義	緩和ケア概論	田上 正	年 月 日
2	講義	身体症状その1 痛みとその対応	齊藤 理	年 月 日
3	講義	身体症状その2 呼吸器症状とその対応	大平 達夫	年 月 日
4	講義	身体症状その3 消化器症状とその対応	遠藤 光史	年 月 日
5	講義	精神症状とその対応	村越 晶子	年 月 日
6	講義	コミュニケーション Advance Care Planning	田上 正	年 月 日
7	講義	End of Life Care	田上 正	年 月 日
8	講義	緩和ケア病棟、在宅医療の実際	遠藤 光史	年 月 日

## 履修状況届

### 臨床腫瘍学総論

回		内容	担当者	日付 (西暦)
1	講義	がん対策基本法とがん対策	吉村 明修	年 月 日
2	講義	がんの統計	菊池 宏幸	年 月 日
3	講義	がん診療とチーム医療	宮松 洋信	年 月 日
4	講義	がんの病因	黒田 雅彦	年 月 日
5	講義	がんの病理診断	倉田 厚	年 月 日
6	講義	がんの増殖・浸潤・転移	高梨 正勝	年 月 日
7	講義	がんの合併症と対策 1	吉村 明修	年 月 日
8	講義	がんの合併症と対策 2	吉村 明修	年 月 日

履修者番号 (学籍番号) \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

## 履修状況届

### 腫瘍治療学

回		内容	担当者	日付 (西暦)
1	講義	がん治療総論 (外科治療)	梶原 直央	年 月 日
2	講義	がん治療総論 (放射線治療)	三上 隆二	年 月 日
3	講義	がん治療総論 (インターベンショナルラジオロジー)	佐口 徹	年 月 日
4	講義	がん治療総論 (内視鏡治療)	前田 純一	年 月 日
5	講義	がん治療総論 (がん薬物療法)	吉村 明修	年 月 日
6	講義	がんの分子標的治療薬	岡野 哲也	年 月 日
7	講義	がん薬物療法による有害事象と支持療法 1	吉村 明修	年 月 日
8	講義	がん薬物療法による有害事象と支持療法 2	宮松 洋信	年 月 日
9	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理 (胸部腫瘍)	岡野 哲也	年 月 日
10	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理 (消化管がん)	福澤 誠克	年 月 日
11	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理 (肝臓がん)	杉本 勝俊	年 月 日
12	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理 (胆膵がん)	祖父尼 淳	年 月 日
13	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理 (乳がん)	山田 公人	年 月 日
14	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理 (女性生殖器がん)	西 洋孝	年 月 日
15	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理 (泌尿生殖器がん)	橋本 剛	年 月 日
16	講義	悪性腫瘍の診断・治療・管理 (造血器腫瘍)	伊藤 良和	年 月 日

履修者番号 (学籍番号) \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

## 履修状況届

## 緩和医療学実習

回		内容	担当者	日付 (西暦)	担当者印
1	実習	外来・病棟実習	濱田 宏	年 月 日	
2	実習	外来・病棟実習	齊藤 理	年 月 日	
3	実習	外来・病棟実習	濱田 宏	年 月 日	
4	実習	外来・病棟実習	齊藤 理	年 月 日	
5	実習	外来・病棟実習	濱田 宏	年 月 日	
6	実習	がん教育現場での実習 (富久小学校)	濱田 宏	年 月 日	
7	実習	緩和ケア研修会への参加 (受講者または見学者として)	濱田 宏	年 月 日	
8	実習	緩和ケア研修会への参加 (ファシリテーターとして)	濱田 宏	年 月 日	
9	実習	緩和ケアチームカンファレンスへの参加	濱田 宏	年 月 日	
10	実習	緩和ケアチームカンファレンスへの参加	濱田 宏	年 月 日	
11	実習	緩和ケアチームカンファレンスへの参加	濱田 宏	年 月 日	
12	実習	区西部緩和ケアネットワークへの参加	濱田 宏	年 月 日	
13	実習	Cancer Board への参加	濱田 宏	年 月 日	
14	実習	新宿区在宅緩和ケア事例検討会への参加	濱田 宏	年 月 日	
15	実習	新宿区在宅緩和ケア事例検討会への参加	濱田 宏	年 月 日	
16	実習	緩和ケアチーム活動内容の研究と発表	濱田 宏	年 月 日	